診断と交換

作業前に必ずお読みください

重要

- 取り付けの際は車との適合を確認し、各項目の注意事項を厳守して作業をしてください。
- 異音が発生するなど、ドライブシャフト関係の異常がある場合は、車両販売店などに分解整備を依頼してください。

危険

- CVブーツの取り付けは、必ず整備工場で整備士に依頼してください。
- 一般車からタクシー・教習車に改造した車両等には絶対に使用しないでください。
- タイヤが地面に接した状態で、ブーツと車両が干渉する場合には使用しないでください。
- 火気のある場所では作業をしないでください。
- 食べたり飲み込んだりしないで下さい。
  万一、飲み込んだ場合は無理に吐かせず、直ちに医師の診断を受けてください。

注意

- CVブーツは、自動車用ドライブシャフト・アウタージョイントブーツ以外には使用しないでください。
- 取り付ける前に製品の取扱説明書をよく読み、安全に作業してください。
- 作業には、必ず保護手袋を使用してバンドなどで手などを切らないように注意してください。
  バンドで手などをあやまって切った場合は、傷口をよく消毒し、医師の診断を受けてください。
- 換気に十分注意して作業してください。洗浄剤や接着剤には刺激臭があります。
- 保護眼鏡等を着用し、必ず目の高さより下で作業をしてください。洗浄剤、接着剤、グリースが目に入ると炎症を起こすことがあります。洗浄剤、接着剤が目に入った場合は、こすったり無理にはがしたりせず清潔な水で15分間洗浄し、医師の診断を受けてください。
- 保護手袋を使用して作業してください。接着剤が付着すると皮膚を接着することがあります。
- 布、革などの手袋や着衣などに多量に付着した場合、急に発熱して火傷することがあります。
- 接着剤は必ず付属のものを使用してください。また、硬化した接着剤は使用しないでください。

保管方法

- 室内に保管し、直射日光のあたる場所や、温度の高くなる場所には保管しないでください。
- 変形させた状態で保管したり、重いものを上にのせないでください。
- 洗浄剤や接着剤は封を切ったまま保管しないでください。
- 長期間在庫しないでください。

CVブーツは、車軸（ドライブシャフト）を保護する重要な部品です。CVブーツは走行中の摩擦熱や急カーブ、急制動などの過酷な使用環境により、劣化、破損するため、定期的な点検・交換が必要です。

傷んだCVブーツをほうっておくと、CVブーツが機能しなくなり、内部のオイルやグリースが漏れて錆や潤滑不良の原因となります。さらに、異音の発生や作動不良により、CVジョイントを一式交換しなくてはならない場合もあります。

特に走行距離の多い車両や経年劣化が目立つもの、FF車、4WD車などは、日頃から注意が必要です。破損したCVブーツを装着した車両は車検を通りません。ヒビ割れ等があれば早めの交換を心がけましょう。

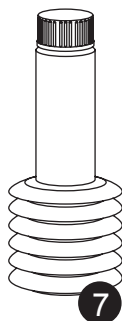
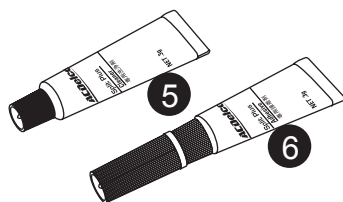
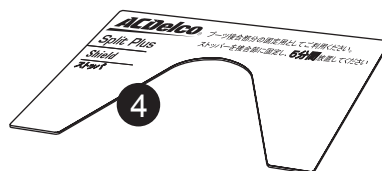
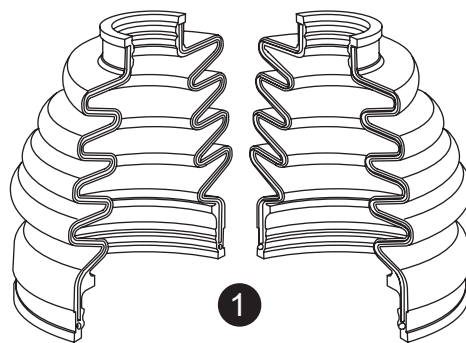
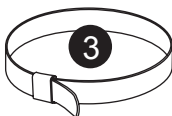
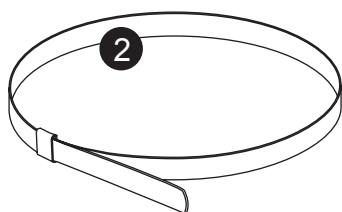
CVブーツの交換

ACデルコのスプリットプラスには下図のパーツが同梱されています。

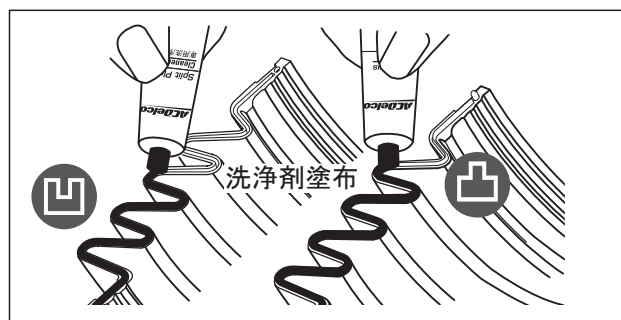
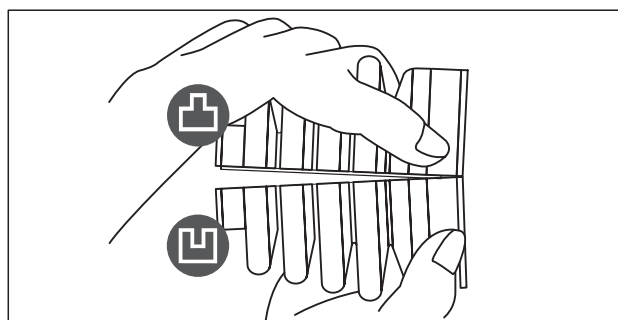
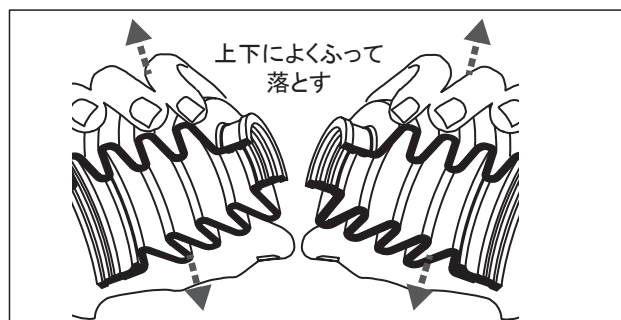
	品　名	個　数
❶	ブーツセット	1セット
❷	締め付けバンド（大）	1本
❸	締め付けバンド（小）	1本
❹	ストッパー	1枚
❺	専用洗浄剤	1本
❻	専用接着剤	1本
❼	グリース	1本
❽	取扱説明書	1枚

■スプリットプラスセット内容

※注）セット内容に不良品、欠品等がありましたら購入先、または販売元にお問い合わせください。

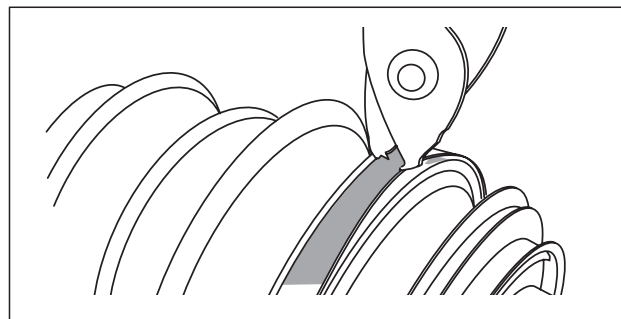
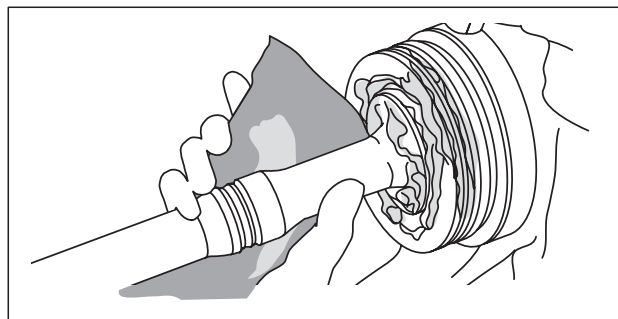
※ 商品の形状仕様は予告なしに変わる場合があります。

CVブーツの交換手順

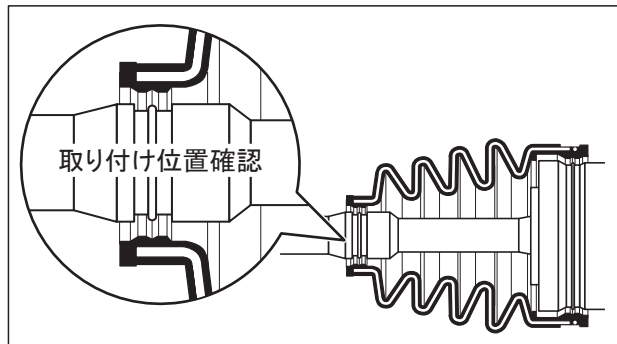
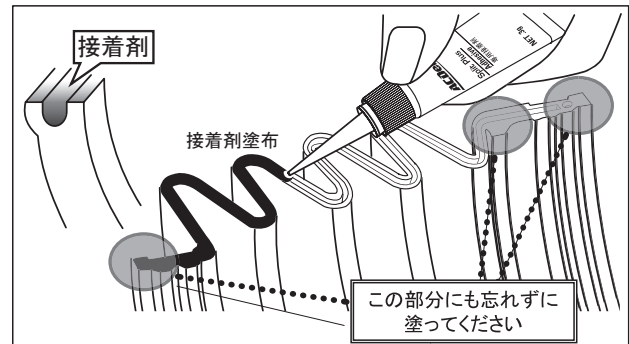
- 効率よく作業を進めるには、ホイールを外すと作業性が良くなります。
- 接着作業時以外は、危険防止のため、必ず手袋を着用してください。
- ドライブシャフト周辺が熱い時の作業は危険ですので、冷めてから作業を行ってください。
- 損傷ブーツを取り外す前に、必ずスプリットプラスの接着面洗浄処理を行ってください。

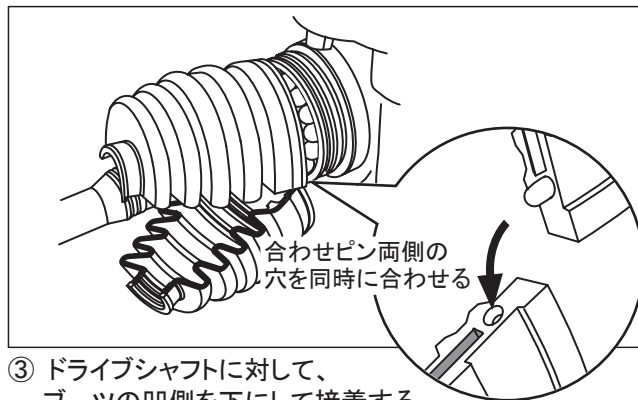
1. 洗浄剤塗布

① 適合品番を確認の上、ブーツ凹凸接着面全体に専用洗浄剤を充分に塗布する

② 洗浄剤塗布後、ブーツの凹凸を合わせて、仮組合わせをし洗浄剤の塗布むらをなくす

③ ブーツをよくふって余分な洗浄剤を落とし乾燥させる(乾きが遅い時はエアー等で軽く吹き完全に乾燥させる)

注意

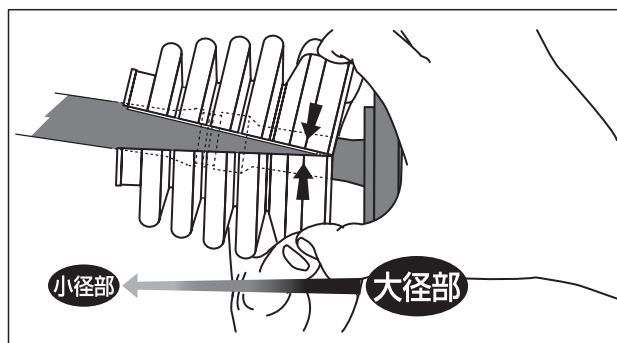
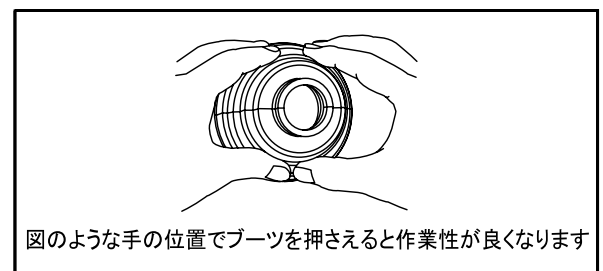
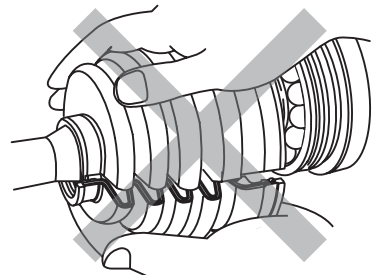
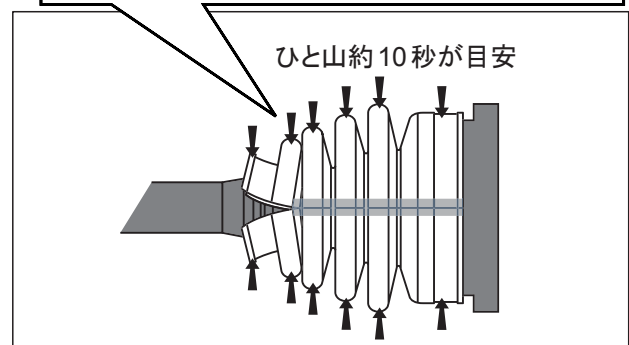
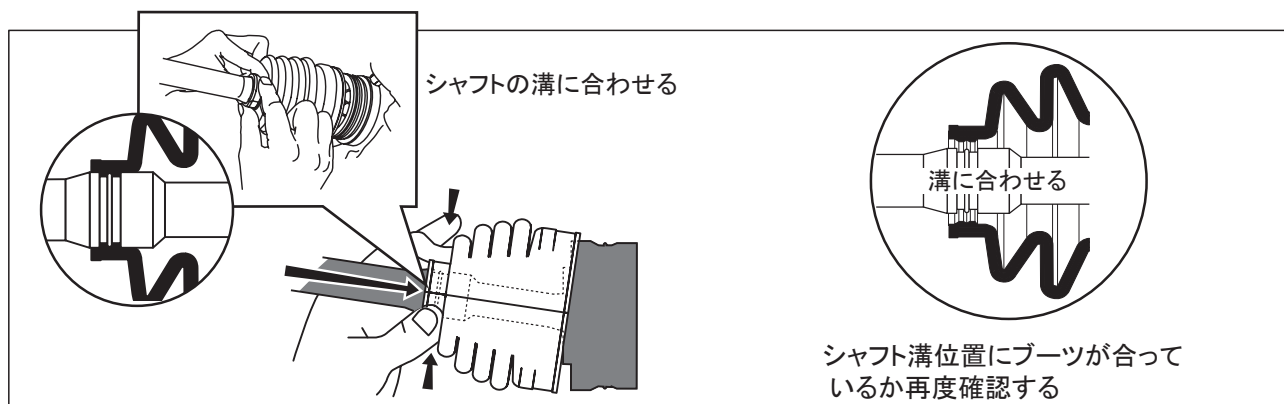
洗浄剤はブーツの凹凸部全面に塗り、完全に乾いてから接着剤を塗ってください
乾燥が不充分ですと接着面”はがれ”の原因になります

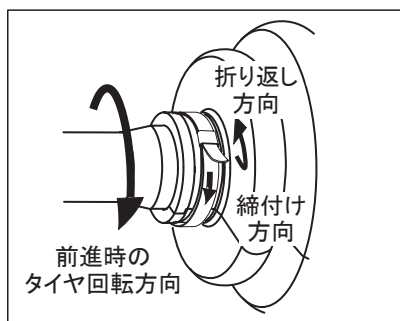
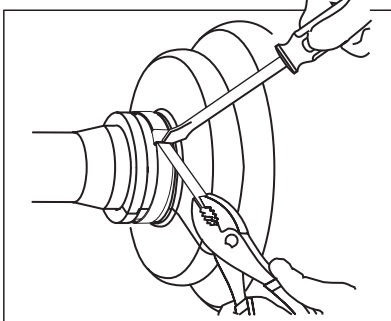
2. 損傷ブーツの取り外し

① 大径・小径部締め付けバンドをニッパ等で切り離した後、ブーツ本体をニッパ又は、カッターナイフ等で切断し取り外す

② シャフト、ベアリングハウジング部のグリースをウエス等で拭き取る(シャフト部はブレーキクリーナーを染み込ませ、ウエス等で油分を拭き取る)

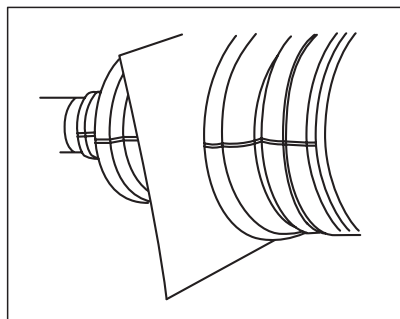
3. ブーツの取り付け

① 洗浄剤が乾いたことを確認し、ブーツをシャフトに合わせてサイズが正しいか確認する

② 凹側ブーツ溝に接着剤を塗布する
凸部には塗る必要はない

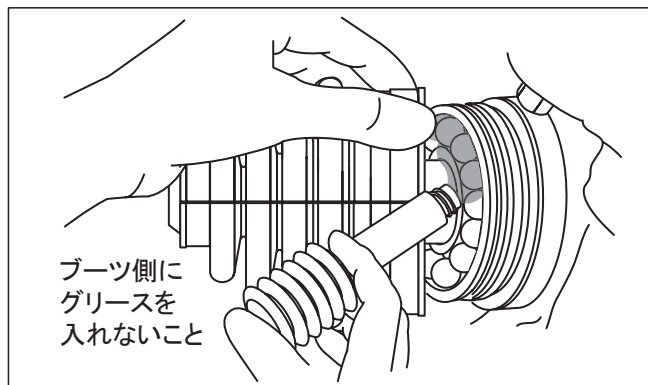
・洗浄剤が完全に乾いてから、凹部にだけ接着剤を塗ってください
・接着剤の塗り過ぎに注意し、溝からあふれないようにしてください

③ ドライブシャフトに対して、ブーツの凹側を下にして接着する
（車種によって異なる場合もある）

図のような手の位置でブーツを押さえると作業性が良くなります

小径部 大径部

④ ブーツ全体を一度に合わせるのではなく、大径部を先に両側同時に接着する
（車種によっては小径部から接着する場合もある）
接着面が見えない場合はブーツを回転させて接着を確認する

⑤ 大径部から小径部に向かってひと山ずつゆっくりとブーツを両側同時に合わせ（ひと山約10秒が目安）、接合部を必ず隙間なく接着する

⑥ 最後にブーツ小径部はシャフトの溝に合わせながら接着する

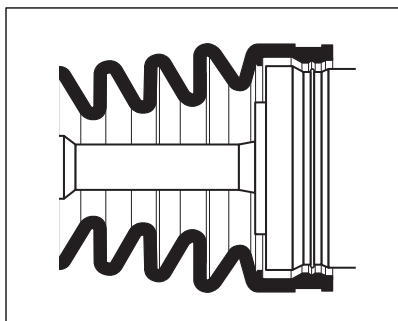
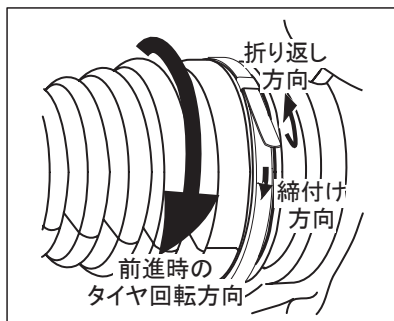
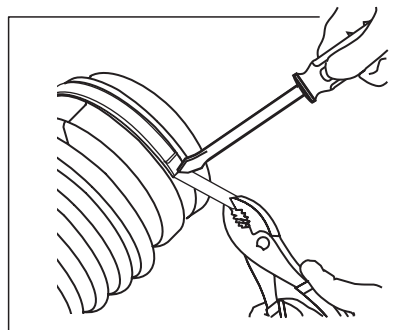
4. 小径部締め付けバンドの取り付け

① 締め付けバンドは車両前進時のタイヤ回転方向に合わせてセットする

② 締め付けバンドをプライヤー等で締め付ける（ＸＩページ参照）
※バンドの締め付けには市販の専用ツールを使用すると便利です（XIIIページ参照）

③ 締め付け後、バンドを折り返して余りを切り取り、バックル部分のセンターを叩いてロックする

④ 同梱のストッパーで中央部を固定し、必ず5分間放置する

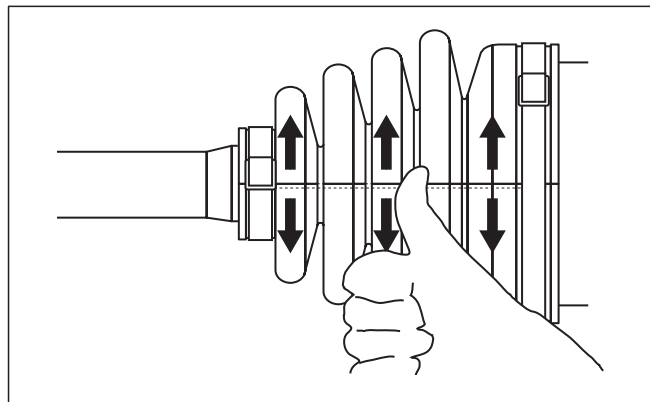
5. グリースの注入

① ブーツ大径部を小径部側にずらし、ステアリングを右又は左に操作し、ベアリング全体が見える様に隙間を作りグリースをベアリングの中に適量（軽自動車は半分位）注入する

② グリース注入後ブーツ大径部はフランジの溝に合わせる

注意
フランジの溝は車種によって異なるので注意してください

6. 大径部締め付けバンドの取り付け

① ブーツ大径部がベアリングハウジングの溝に合っているか再度確認する

② 締め付けバンドは車両前進時のタイヤ回転方向に合わせてセットする

③ 締め付けバンドをプライヤー等で締め付ける（ＸⅠページ参照）
※バンドの締め付けには市販の専用ツールを使用すると便利です（XIIIページ参照）

④ 締め付け後、バンドを折り返して余りを切り取り、バックル部分のセンターを叩いてロックする

7. 最終チェック

① 余分にはみ出た接着剤はウエス等で拭き取る

② 凹凸接合部を手で軽く押したり、引いたりして接合の確認をする

③ もし未接合箇所がある場合は、その箇所に接着剤を点付けし、30秒程押える

④ 締め付けバンドにずれ、緩みが無いか確認する